

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770700254		
法人名	有限会社マイルドケア		
事業所名	グループホームたんぼぼの家		
所在地	香川県東かがわ市湊263番地1		
自己評価作成日	平成24年9月5日	評価結果市町受理日	平成23年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kihon=true&JigyosyoCd=3770700254-00&PrefCd=37&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成24年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様に対し、常に笑顔と尊厳の心を持って家庭的で安心できる生活環境を提供しています。 ・健康に留意し残存機能を引き出すケアを提供しています。 ・食習慣を尊重し、特に食事内容に気を配っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>当事業所は利用者一人ひとりを大切に、その人らしく過ごせる支援を心がけている。職員は常に笑顔で対応し、利用者の笑い声が聞こえる環境づくりを心がけている。食事内容にも利用者の状況に応じた配慮があり、利用者が楽しく食事時間を過ごせるように支援している。職員は向上心を持ち、互いに研鑽し、サービスや技術の向上に努力している。家庭的な環境のもと、安全に留意し、利用者が必要としている介護サービスを提供するように努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

グループホームたんぼぼの家(本館)

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼や職員の集まる時にみんなで理念を確認し合う。	毎日、職員全員で理念を唱和する等して、理念の共有と意識づけを図っている。日々の業務において、疑問や迷いを感じた時はその都度話し合い、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの小学校との交流、保育園の訪問等、気軽に交流できるよう努めている。また、NPO法人の方等が定期的に来てくれている。夏には夏祭りを開催し、地域の方との交流を図っている。	地域の小学校や保育園との交流があり、ボランティア等の定期的な訪問もある。夏には事業所主催の夏祭りを開催し、家族等の応援もあり、地域住民の参加が年々増加している。近所の方が季節の野菜等を持って気軽に立ち寄ってくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あまり活かされていないが、定期的で開催している家族会等において、当事業所についてのアピールをしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を行い、事業所内で実施している内容について報告し、参加者の意見を取り入れサービス向上に活かしている。	会議時間は30分程度で、効率よく運営されている。事業所から活動報告等をし、参加メンバーからの質問や意見、要望を聞き、課題があれば改善に努め、サービス向上に活かしている。	より地域の理解と支援を得るための貴重な機会なので、事業所の取り組みや課題を話し合い、参加メンバーが積極的に関わられるようにさらに働きかけていくことを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	状況、相談等、市に用事のある際に話をする機会を持っている。	運営推進会議に出席してもらい、事業所の状況を見てもらったり、参加メンバー等と話し合う機会を持っている。事業所から相談等がある場合は出向いて行き、情報を共有して連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠はせず音で出入りを分かるようにしている。事業所内は自由に移動ができ、外出時は見守る。	事業所の玄関は常にオープンにし、安全を確保しながら、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を定期的に行い、職員全員で守っていけるよう確認、声かけをお互いに行っている。		

グループホームたんぽぽの家(本館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学習し、必要に応じてご家族様に情報提供できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に事業所についての説明、見学をしっかりともらい、その都度質問を受け、できるだけ分かりやすく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加していただき、市役所の方々とは話す機会を設け、ご家族様が話しやすいよう心がけている。 年3回家族会を開催して意見をいただき、ケアに活かしている。	年3回家族会を開催している。家族等はよく面会に来て、職員と気軽に話せる雰囲気が出てきている。家族等から出された意見や要望等は、サービスに反映させるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会、主任会を月に1回開催し、職員からの意見を聞くようにしている。また、日々のカンファレンスで職員からの提案や企画等、意見を出しやすい環境作りをしている。	管理者等は、日頃から職員とコミュニケーションを図るように心がけ、話しやすい職場環境にある。月1回の全体会や主任会、日々のカンファレンスにおいて、職員からの意見や提案等を業務に活かす姿勢がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は無理のない勤務ができるよう配慮し、相談に乗っている。 家族会や運営推進会議に代表者が参加し、現状把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会の際に社内研修を行い、様々な面から学習し、技術の向上に役立っている。 社外研修にもできるだけ参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加し、他の事業所についての考えや意見をもらい、良い点は取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様より今までの生活を聞き、できるだけ家ででの生活を崩さないよう環境を整え、本人の側で話を聞く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の今までの思いと、今後、利用者様にどんな生活を送ってほしいかを聞いたり、状況報告を密に行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っていることへの援助ができるよう関わりの時間を持ち、把握する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のできることについて、どんどん手伝ってもらい役割を持ってもらう。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と利用者様を繋げられるように連絡を密に取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所をオープンにし、いつでも訪問しやすい環境を作るように努めている。また、地域行事を行ったり、馴染みの美容院や喫茶店に行ったりしている。	事業所はいつでもオープンにして、訪問しやすいようにしている。利用者は馴染みの美容院や喫茶店に出かけたり、地域の小学校の文化祭に出かけている。事業所では利用者一人ひとりの生活習慣を尊重し、地域との関係が継続するように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	プライバシーを尊重しながら、気分に応じて楽しく過ごせるよう明るく努め、トラブルを回避している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様に連絡を入れたり、会った時に声をかけ状況を尋ねている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活や大切にしてきたことを聞き、できるだけ継続していけるよう支援している。	利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。利用者の担当を決め、日々の関わりの中で、思いや意向により気づくように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、ご家族様より、今までの生活や好きだったこと、習慣等の情報を収集し、利用者様の意向を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中での利用者様の過ごし方、生活リズム、体調、行動より調子を細かく見ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気になる点について担当職員より意見をもらい、今の状態においてよりよい方向へいけるようにしている。	担当者を中心に職員全員で話し合い、情報を共有して利用者個々の介護計画を立案している。計画の見直しが必要な場合は、その日の内に全員で話し合い、現状に即した計画に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子に関する個別記録があり、共有している。 目標に対する結果を日々のケアプランに記入して、実践と見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの訪問時等には、併設のデイサービスの方と一緒に参加し、交流を持っている。		

グループホームたんぽぽの家(本館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周囲との関わりを保てるよう、ボランティアの方々に来てもらう機会を多くしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族様の意向を尊重し、希望された医療機関で受診している。	利用者本人や家族等が希望する医療機関や医師に受診できるように支援している。受診結果については報告し、共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常にいて状態を把握している。日常の健康管理について、すぐ相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリー(利用者情報を要約したもの)を通して利用者様の状態を伝え、入院中もほぼ毎日面会に行き、看護師に情報をもらい把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合における対応に係る指針を打ち出し、ご家族様への説明を行っている。 また、重度化した入居者様については、ご家族様や主治医と意見交換し、今後のケアについて方向性を決められるよう努めている。	事業所で作成した、重症化した場合における対応に係る指針に沿って、家族等に説明し確認をもらっている。家族や利用者からのニーズをくみ取りながらチームで話し合い、状況に応じた対応をしている。5月には、家族等の希望により看取りを体験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について、マニュアルを作成し対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、災害時訓練を行い、慌てず対応できる方法を訓練している。	6月と11月に実際に想定した火災時の避難訓練を実施している。	職員だけの誘導等の対応には限界があるため、地域の協力が得られるように、運営推進会議等で協力を呼びかけたり、話し合う取り組みが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年上の方への敬意を持ち、その人に合わせた声かけや援助ができるようにしている。	利用者のその人らしさを大切にし、接し方や言葉かけに注意をしている。常に優しい声かけを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつも意見を聞き、希望にできるだけ沿えるように外出面や娯楽がある生活が送れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活ペース、習慣に合わせて、食事時間、起床就寝時間、トイレ等の援助をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服を一緒に選び、女性は化粧を続けたり髪をセットする等、楽しめるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時間、食べたい物、欲しい物を尋ね、意向に沿えるよう工夫している。自分でできる準備、片づけを行ってもらうようにしている。畑で採れた野菜を使用し話題にすることで、食事中も楽しんでいただいている。	利用者に週2回献立の希望を聞き、栄養士が献立を立てている。献立内容は種類が多く、利用者一人ひとりの状況に応じたものになっている。職員と一緒に食事をしたり、食事介助をしながら利用者に声かけをしており、利用者も一緒になごやかな時を過ごしている。おやつは、季節感のある物をみんなで作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量をチェックし、摂取量に応じ個別に補食等で調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じ口腔ケアをしてもらい、細かい部分を職員が行っている。		

グループホームたんぽぽの家(本館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のない方については、定時に排泄時の見守りや介助を行ったり、清潔に過ごせるようパッドを利用する等、利用者様の状況に合わせている。	ほとんどの利用者が自立している。本人が行きたい時にトイレに行くことができるように、一人ひとりに寄り添った見守り支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録により排便の把握を行っている。水分摂取、ヨーグルト等で排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ利用者様の意向に合わせる。拒否の方にはタイミングを見て、入れる時に願います。	毎日入浴できるようにしている。夜間の入浴やシャワーを好む利用者には、希望にそうようにしている。入浴を拒む利用者には言葉かけや対応に工夫をしている。利用者一人ひとりの意向を大切に支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時には寄り添い、声かけし眠りにつけるよう援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり管理している。介護職員にも勉強会を行って説明している。個々のカルテに内服薬のファイルがあり、副作用が分かるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝い、新聞、歌等、利用者様の生きがいにつながる役割を持つよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じ外出援助している。ご家族様の希望時にいつでも外出できる。季節に応じた外出等を計画したり、買い物や個々の希望する場所に外出する機会を作っている。	年間計画を立て遠足や花見等に、また、利用者全員で外出に出かけている。利用者の、その日の「美容院に行きたい」、「うどんを食べに行きたい」等の要望に対しては、職員間で協力し合って、利用者一人ひとりの希望に応じた外出ができるように支援している。	

グループホームたんぽぽの家(本館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が可能な方には持ってもらい、パン屋等が来た時や外出時に支払いをしてもらう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話よりご家族様にかかけられるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアや居室の環境作りを行い、空調、明るさ、危険物の除去、清潔に心がけている。カレンダーを毎月利用者様とともに手作りし、四季を感じていただけるようにしている。	玄関は季節の物が飾られ、居間等は明るい日差しが射し、家庭的な雰囲気がある。畳の間で休んでいる人、お気に入りのテレビを見ている人、食事の後片付けを職員と一緒にしている人等、利用者それぞれにとって居心地のよい場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな時に居室に戻り、休めるようにしている。 フロアにテレビ、ソファ等を置き、談話やくつろぎの場として活用していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物、必要に応じた物を持って来てもらい、引き続き使ってもらっている。	居室には、使い慣れた馴染みの物があり、家族の写真を飾ったり、テレビを置いたりして、利用者それぞれの好みの部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の前に自分の顔写真を飾ったり、トイレに目印を付け、一人でも分かりやすく工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼や職員の集まる時にみんなで理念を確認し合う。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの小学校との交流、保育園の訪問等、気軽に交流できるよう努めている。また、NPO法人の方等が定期的に来てくれている。夏には夏祭りを開催し、地域の方との交流を図っている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あまり活かされていないが、定期的開催している家族会等において、当事業所についてのアピールをしていきたい。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を行い、事業所内で実施している内容について報告し、参加者の意見を取り入れサービス向上に活かしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新、毎月の入退居状況の報告を行い、できる限りの情報交換を行っている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。 玄関にはベルを付け、鍵をかけない工夫をしている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながることや、他の事例を通して定期的に考える機会を持っている。 言葉使いにも注意している。

グループホームたんぽぽの家(新館)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学習し、必要に応じてご家族様に情報提供できるようにしている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に事業所についての説明、見学をしっかりともらい、その都度質問を受け、できるだけ分かりやすく説明している。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加していただき、市役所の方々と話す機会を設け、ご家族様が話しやすいよう心がけている。 年3回家族会を開催して意見をいただき、ケアに活かしている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会、主任会を月に1回開催し、職員からの意見を聞くようにしている。また、日々のカンファレンスで職員からの提案や企画等、意見を出しやすい環境作りをしている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は無理のない勤務ができるよう配慮し、相談に乗っている。 家族会や運営推進会議に代表者が参加し、現状把握に努めている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	色々な研修に、なるべく多くの職員が受講できるようにしている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等への参加により交流する機会を持ち、情報交換することによりサービス向上を図っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初のアセスメントをしっかり行い、今までの日常生活をできるだけ崩さないよう環境作りをしている。 在宅担当ケアマネージャーと連携をとり、安心につなげている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた時はグループホームの説明を行い、納得するまで話し合うように努めている。 利用者様の状況を密に報告し、安心していただく。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の状況に合わせ、本人や家族にとって良い方法を一緒に考え、必要な支援を見極めている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喜怒哀楽を共感し、信頼関係を築いている。 洗濯、掃除等日常生活における行動を共に行っている。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の状況を報告、相談しながら、一緒に支えていく関係を築いている。 面会時にも状況報告を行うようにしている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事への参加、馴染みの美容院、うどん屋等に行っている。また、時々家に帰ってお墓参りをしたり、近所の散歩を行っている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共用の場所においてはトラブルが生じないように十分注意している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	担当ケアマネージャーを通じて情報交換を行い、関係を切らないように努力している。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様と話し合い、利用者様の希望、意向の把握に努めている。 本人本位のサービスができています。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やサービスの経過等、ご家族様より情報を得て、アセスメントを作成している。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の現在の様子の把握を、様々な角度から行うようにしている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状況やご家族様の意向を聞き、職員全員で話し合い介護計画を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子に関する個別記録があり、共有している。 目標に対する結果を日々のケアプランに記入して、実践と見直しに活かしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの訪問時等には、併設のデイサービスの方と一緒に参加し、交流を持っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園や小学校の行事に参加する等、地域の中で必要に応じて協力しながら支援している。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族様の意向を尊重し、希望された医療機関で受診している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常にいて状態を把握している。日常の健康管理について、すぐ相談できている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との情報交換を行い、関係作りに努めている。 入院中はほぼ毎日面会を行い、病院関係者やご家族様と話し合っている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合における対応に係る指針を打ち出し、ご家族様への説明を行っている。 また、重度化した入居者様については、ご家族様や主治医と意見交換し、今後のケアについて方向性を決められるよう努めている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については、マニュアルを作成して勉強会を行い、全員ができるよう努力している。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練とともに災害時(津波等)の訓練を行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重し、言動には十分注意している。優しいトーンで声かけするよう心がけている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の希望を言われる方が多いので、できる限り希望を叶えられるよう支援している。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせ生活できている。買い物に出かけたり本人が希望することはできる限り対応している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みを尊重し、身だしなみも自由に行っている。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	切ったり盛り付けしたりできる方にはしてもらっている。畑で採れた野菜を使用し話題にすることで、食事中も楽しんでいただいている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を個々に記録し管理している。キザミ食やミキサー食への対応も行っている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけして口腔ケアを行っている。義歯は洗浄剤にて洗浄している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほぼできている。 個別に排泄チェックを行い、パターンを把握している。ほとんどの人が自立している。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録により排便の把握を行い、水分の増量、繊維物の摂取等に注意している。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り行っている。 夜間のシャワー、入浴にも対応している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを大切に支援している。 昼間、居室で休んだり自由に入出入りでき休息できる。夜間のシャワーにより安眠できる支援も行っている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり管理している。 介護職員にも勉強会を行って説明している。 個々のカルテに内服薬のファイルがあり、副作用が分かるようにしている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の状況に合わせ洗濯物干しや洗濯物たみ、食器洗い、畑仕事等役割を持ってもらっている。また、レクリエーション、散歩、ドライブ等で気分転換できるようにしている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きつけの美容院、理髪店への外出、買い物への介助、自宅への外出等、様々なパターンで支援している。

グループホームたんぽぽの家(新館)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かける時に自分で支払えるように援助している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話よりご家族様かけられるようにしている。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内に絵や創作活動での作品を飾っている。 また、畳の間を利用し、ゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の座席は決まっており、仲の良い方同士、同じテーブルで思い思いに過ごせるよう努めている。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を皆持ち込み、くつろげるようにしている。 配置も本人、ご家族様と相談し使いやすいよう工夫している。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ等には手すりをつけ、安全に自立した生活が送れるようにしている。